

兵庫県立赤穂高等学校科学探究Ⅰ



『赤穂の環境について』

令和6年7月9日（火）に兵庫県立赤穂高等学校の「科学探究Ⅰ」の授業において、環境課の職員が「赤穂の環境について」の授業を行いました。授業の様子や生徒さんの感想をご紹介します。

内容

- 「昭和40年代の赤穂市」と「現在の赤穂市」の空中写真を比較し、塩田跡地に工場ができ



工場が増加していることや「公害の歴史」について説明しました。

- 二酸化硫黄 (SO₂)、二酸化窒素 (NO₂)、微小粒子状物質 (PM_{2.5}) の状況や赤穂市の温室効果ガス排出量は、「産業・エネルギー転換・工業プロセス部門」の占める割合が高い特徴があること等を説明しました。

- 千種川の水質状況として「坂越大橋地点のBOD（生物化学的酸素要求量）経年変化」や海域調査の説明の中で、「地先海域のCOD（化学的酸素要求量）経年変化」を紹介しました。

- 「瀬戸内海の水質の変化について」や「海洋プラスチックごみ」等について説明しました。



写真（授業風景とスライド）



生徒さんの感想

- 「赤穂の環境についていろいろなことを知ることができたので、これからの活動に活かしていきたい。」
- 「海洋プラスチックが増えているので、エコバッグの使用やゴミの持ち帰りなど、一人一人の心がけで減らしたかった。」

今後も地球温暖化が深刻化する中、社会全体として脱炭素・循環型・自然共生社会への移行が求められています。

赤穂市の自然を守っていくためにも、一人一人が環境保全の意識を持ち、環境保全のために何ができるのかを考え、行動に移していくことが大切です。

市民の皆さんに市の事業等をご紹介します「早かごセミナー」で、赤穂の環境に関する出張講座も行ってまいりますぜひご利用ください。

